

3.外部活動

新型コロナウイルスが蔓延したことで、研修は対面型からオンラインが主流となっていました。現在は徐々に対面型研修が増え、学会発表も再開されています。今後も外部活動を積極的に行い、自己研鑽、訪問看護の普及・推進に努めます。

<学会発表実績>

総論について

学会名	演題名
第24回日本訪問リハビリテーション協会学術大会	大規模訪問看護ステーションの強みを活かした組織運営について
第51回日本理学療法学会学術大会 北海道	訪問リハビリテーション利用者の生活空間拡大に関連する要因
第2回日本地域理学療法学会学術集会 千葉	訪問看護ステーションの大規模化に向けた取り組み
第50回日本理学療法学会学術大会 東京	訪問リハビリテーションの長期効果および実施内容に関する予備的研究

事例について

学会名	演題名
リハビリテーション・ケア合同研究大会 茨城	自宅で安全・安楽に継続して過ごすために～看護とリハビリの連携～
第53回日本リハビリテーション医学会学術集会 京都	訪問リハビリテーションの新規利用者に対する3ヶ月間の介入効果
第6回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 大阪	みんながリフトを使えるようにと取り組んだ一症例

教育について

学会名	演題名
第8回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 東京	訪問看護ステーションでの実習生の受け入れについて
第8回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 東京	訪問看護ステーションにおける新入職者教育システムの構築について